

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	プロジェクトワーク11	
科目基礎情報					
開設学科	CG映像科	コース名		開設期	後期
対象年次	3年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	実習
教科書/教材	教材及び使用ソフトウェアはその都度指示する。				
担当教員情報					
担当教員	松永 治空、細川 一弘、企業2社		実務経験の有無・職種	有・画家、CGディレクター	
学習目的					
今まで身に付けた制作スキルををもとに卒業作品に相応しい作品を制作する。企業よりCGディレクターを迎え、プロジェクトチームを編成し技術指導、演出指導を実施する。作品制作と並行し、ゲームや映像制作の現場で必須となるモーションキャプチャーデータの収録技術や、映像編集、VFXなど、個別の技術的指導を学生の作品レベルに合わせて実施する。就活継続中の者は更なる作品増強をし、進路決定実現に繋げる場とする。					
到達目標					
専任教員に加えプロのクリエイターの指導により高度な技術と表現方法を導入した作品を完成させ、動画作品コンクールの上位入賞を目指す。自身のスキル、進路に応じて企画立案の指導を行い、それぞれの特性に合わせたジャンルを決定する。個人、またはグループにて、就職活動にも実際に使用する作品を完成させる。グループでの作業を経験することにより社会に出た際に求められるコミュニケーションスキルの向上にも繋がる。					
教育方法等					
授業概要	集大成としての作品制作を行う。制作により技術向上を目指し、研究等を行うことで来年度の仕事に備える。企画、演出、プレゼン、発表と今までの作業をまとめて進める。各自の課題を確認しつつ、作品制作の一連のプロセスを経て、就職活動に対応可能な作品を完成させる。映像編集、映像合成、VFXの技術レクチャーについては、各作品に必要な技術が習得できるよう、学生個人の選択制とする。				
注意点	企画チェック、中間講評にて進捗および作品制作の注意点を明確化し、作品完成までの目標を達成させること。 授業時数の4分の3以上出席しない者は評価しない(不合格とする)。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	所定の作品課題の完成度・到達度により評価する		
	小テスト	0%	実施しない		
	レポート	0%	実施しない		
	成果発表 (口頭・実技)	30%	作品課題のプレゼンテーションを行い、それを評価する		
	平常点	20%	積極的な制作態度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	企画検討、チーム構成		グループメンバーを決める／企画に沿った内容を考える力を養う		
2回	企画検討、チーム構成		企画に沿った内容を考える力を養う／企画を資料にまとめて人に伝える準備を整える		
3回	企画発表、台本・絵コンテ		企画発表により伝達する力を養う／台本・絵コンテ作成により完成イメージを確認・共有する		
4回	企画修正発表、図ケジュール発表		企画内容のチェックを受け、完成日を含む作業予定を決定・共有する		
5回	企画・演出指導		台本・絵コンテを基にプレビズを制作／内容チェックを受け、企画と演出について理解を深める		
6回	企画・演出指導		台本・絵コンテを基にプレビズを制作／内容チェックを受け、企画と演出について理解を深める		
7回	企画・演出指導		プレビズ完成／発表を通して、改善点理解し、修正を行うことで本制作へ反映させる		
8回	演出・技術指導		プレビズ修正／本制作(CG、撮影)を行うことで技術の復習・応用学習を行う		
9回	演出・技術指導／俳優依頼書作成		本制作(CG、撮影)を行うことで技術の復習・応用学習を行う		
10回	演出・技術指導／俳優オーディション		本制作(CG、撮影・音声確認、仮声優)を行うことで技術の復習・応用学習を行う		
11回	中間発表 内容修正指示		進捗発表を通して、改善点理解し、修正を行うことで内容の向上方法を学ぶ		
12回	演出・技術指導／声優依頼書作成		本制作(CG、撮影・音声)を行うことで技術の復習・応用学習を行う		
13回	演出・技術指導		本制作(CG、撮影・音声確認、仮声優)を行うことで技術の復習・応用学習を行う		
14回	演出・技術指導／声優オーディション		本制作(CG、撮影・音声)を行うことで技術の復習・応用学習を行う		
15回	演出・技術指導／声優収録		本制作(コンポジット・プレビズからショット置き換え)を行うことで技術の復習・応用学習を行う		
授業計画（16回～18回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
16回	演出・技術指導		本制作(編集・音声・色調調整・データ修正)を行うことで技術の復習・応用学習を行う		
17回	提出・発表準備・コンテスト応募		本制作(最終調整)・提出／発表資料をまとめて人に伝える準備を整える		
18回	講評会		完成作品の発表・講評を通して自身の希望進路について再確認を行い、心の準備を整える		